

ナワシロイチゴ

Rubus parvifolius

バラ科

名前の由来

(本州では) 6月の苗代をつくる頃に実が熟スイチゴということから。「イチゴ」は、①イチビコ(蓬蘽)=イチビ《アオイ科の一年草》の略、②イヲ(魚)の血のある子のような所から、③ヨキチコリ(好血凝)の意味、④イはイシイ(美味)の上略、チはチ(乳)の味、コはコ(如)の意、など諸説がある。漢字名: 苗代苺



ナワシロイチゴ

形態的特徴

茎はつる状、基部が扁平な小刺がある。葉は頭大3出複葉まれに5、長さ5~15cm、小葉の先は丸く二重鋸歯縁、裏は綿毛あり雪白色。花は紅紫色で径2cm、花弁5枚、5~6月開花。果実は球形で径12~20mm、8月に赤熟する。

類似種との見分け方: ナワシロイチゴは、花が紅紫色であること、小葉の先が丸くてとがらないこと、葉柄や幹に基部が扁平なトゲがあること、幹が立ち上がらないこと、などで区別できる。



ナワシロイチゴの花



ナワシロイチゴの実



ナワシロイチゴの葉。それぞれこれで1つの葉(複葉)。右のように3枚の小葉が普通だが、左のように5枚のものも



ナワシロイチゴ。つる状に伸び、所々で根を出す。枝は直立する



ナワシロイチゴの幹。赤褐色。基部が扁平なトゲあり



(上) ナワシロイチゴの葉の付き方 (下) ナワシロイチゴの冬芽。3~5mm

生活サイクル

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
開花期												
結実期												

生育環境・分布

山地や原野、海岸の日当たりのよい所に生える。

分布：国外分布は、朝鮮、中国。国内分布は、北海道、本州、四国、九州、沖縄。北海道内分布は、中部から南にかけて多い。

十勝地方生育状況は、全域。日当たりのいいところ。

繁殖生態・寿命

5～6月開花。果実は球形で径12～20mm、8月に赤熟する。寿命は不明。



(上) ナワシロイチゴは日当たりの良いところで生育する

(左) ナワシロイチゴは果実が目立つが春咲く花もかわいい

他生物との関わり

チャマダラセセリの幼虫の食樹となる。

果実は動物に食べられ、種子分散されると思われる。



チャマダラセセリ。幼虫時、ナワシロイチゴを食樹とする

植栽関係

不明。

興味深い話

- 果実を生食、ジャム、シロップなどに供する。
- 別名「サツキイチゴ（皐月莓）」ともいい、本州では陰暦の5月に熟することからこう呼ばれた。
- 実は、そのまま食べてもあまりおいしいとは言えないが、完熟時の実の色は透き通るような赤い色で非常に美しい。

配慮事項

不明。



ナワシロイチゴの実。熟すと透き通るような美しい色になる

魚類

底生動物

両生類
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

(在来種)
草花

(外来種)
草花

哺乳類

(水辺)
鳥類

(草原・タカ)
鳥類
ワシ

参考文献

「改訂増補 牧野新日本植物図鑑」牧野富太郎 著 小野 他編集
北隆館 1989
「図説花と樹の大事典」木村陽二郎 監修 植物文化研究会・雅麗 編集 柏書房 1996
「北海道 樹木図鑑」佐藤孝夫 亜璃西社 1990
「新版 北海道の樹」辻井達一・梅沢俊・佐藤孝夫 北海道大学

図書刊行会 1992

「北海道 庭と庭木のすべて」原秀雄・須田輝 北海道新聞社 1978

「北見の蝶」木村辰正 北見市教育委員会 1994

「森林で遊ぼうシリーズ1 おもしろい木の話」北海道立林業試験場 監修 北海道林業普及協会 1996